

## 団体の概要 (NGO/NPO用)

団体名 特定非営利活動法人 杜の会

所在地	〒157-0073 東京都世田谷区砧 5 - 1 - 1 - 204 e-mail LEP02747@nifty.ne.jp		
ホームページ	<a href="http://homepage2.nifty.com/morinokai/">http://homepage2.nifty.com/morinokai/</a>		
設立年月	1999年 11月 17日		
代表者	中村和郎	担当者	矢野智徳
組織	スタッフ 5名 (内常勤スタッフ5名) 個人会員 35名 法人会員 2団体		
設立の経緯	造園業の現場において、植物の適正環境を整える土壌、排水、施肥、消毒、剪定などの環境改善作業だけでは、植物の活性が図れないという現実直面し、土壌内排水と土壌内通気との関連性に着目したことをきっかけに、様々な分野の有志とこの問題を論議する過程で、土壌環境のメカニズムの調査・研究を行うことの重要性を認識し、環境NPO法人の設立に至った。		
団体の目的	当会は、沖縄県をはじめ全国各地での、人工開発が与える環境的負荷の具体的メカニズムを調査し、改善し、人間を含めた、生物の過ごしやすい環境を再生すること、および環境改善に関心のある地元住民の方、学生、研究者、教育者、行政の方々とともに、理論と実践を両輪した共同活動につなげ、社会的活動へと展開していくことを目的とする。		
団体の活動プロフィール	2003年10月沖縄県職労農林水産ツーリズム研究会から依頼を受け現地視察 2003年11月沖縄第一実験農地改善整備開始 (農地面積約3500㎡) 継続中 2004年05月山梨県富士吉田市 特別養護老人ホーム慶和荘山林整備 2004年10月沖縄第二実験農地整備開始 (農地面積約3800㎡) 継続中 2005年03月沖縄第三実験果樹園通気改善整備 (農地面積約500㎡) 継続中 2005年04月京都市山科区 岩屋神社境内環境改善工事 2005年05月沖縄第一実験林地 山の神様林地改善開始 継続中 2006年02月三重県愛農学園農業高等学校 愛の森整備開始 継続中 沖縄の改善活動については、月に1回、地元農家の方と勉強会を行うと共に、農地整備作業、辺野喜(ヤンバル)の農地・林地の定期観測、周辺の自然環境の臨床的観察等を実施している。		

活動事業費 (平成17年度) 8,700,000円

団体名：特定非営利活動法人 杜の会  
担当者名：矢野智徳

#### 政策の分野

- ・ 生物多様性の保全と自然との共生の推進
- ・ 森林、緑地、海岸、里地、里山、湿地、身近な自然の管理と利用
- ・ 自然環境保全に関する調査・研究、モニタリング
- ・ 自然再生・復元
- ・ 空気・水・土の保全

#### 政策の手段

予算・資金措置 : 土壌環境のメカニズムに関する調査・研究のための活動支援  
調査研究、技術開発 : 土壌環境の空気と水の循環を確保するための技術・研究・開発  
環境教育・学習の推進 : 土壌環境のメカニズムを基軸とした環境学習の推進

#### 政策の目的

一般的な環境調査では見て取ることのできない生態系の動きと、土壌環境におけるメカニズムの間には深い関連性がある。そのことを解明するために、土壌中の空気と水の循環に関する研究と調査を行い、土壌環境のメカニズムを明らかにし、効率的な環境保全事業における環境改善技術の開発を行うとともに、森林崩壊や河川崩壊などのさまざまな環境問題を解決する一助に寄与することを目的とする。

#### 背景および現状の問題点

さまざまな環境保全対策が提案され実施されてきたが、森林環境、河川環境などの諸問題は悪化の一途をたどっている。NPO法人杜の会では、東京、沖縄をはじめ全国各地の環境改善事業に携わり、長年にわたって継続的にメンテナンスを行ってきた。その経験から局地的環境のみならず、その地域を含む広域の地形・地質・気候等の環境を考慮に入れる必要があること、および土壌中の空気と水の流通の連動に注目すべきであることを見いだし、数々の技術的創意工夫をこらして成果を上げてきた。今後、理論的裏付けを確立するための研究を推進して、普及を図りたい。

#### 政策の概要

基準となるフィールドを決定し、土壌環境の空気と水の循環に関する調査・研究を行う

- ・ 対象フィールド：沖縄、三重ほか
- ・ 基礎研究：土壌環境の空気と水の循環および作用について、  
大学、研究機関などでの学術的な基礎研究
- ・ フィールドによる調査・研究：土壌環境に関する研究 ポイント：土質ごとの空気と水の循環、地形ごとの空気と水の循環、雨水浸透および泥流による土壌環境への影響
- ・ 土壌空気と植物の生育に関する研究 ポイント：土壌空気と土質および腐葉土層との関連
- ・ 河川と土壌環境との関連性に関する研究 ポイント：河川流域における土壌環境
- ・ 人工物と土壌環境との関連性に関する研究 ポイント：コンクリート構造物による土壌環境への影響

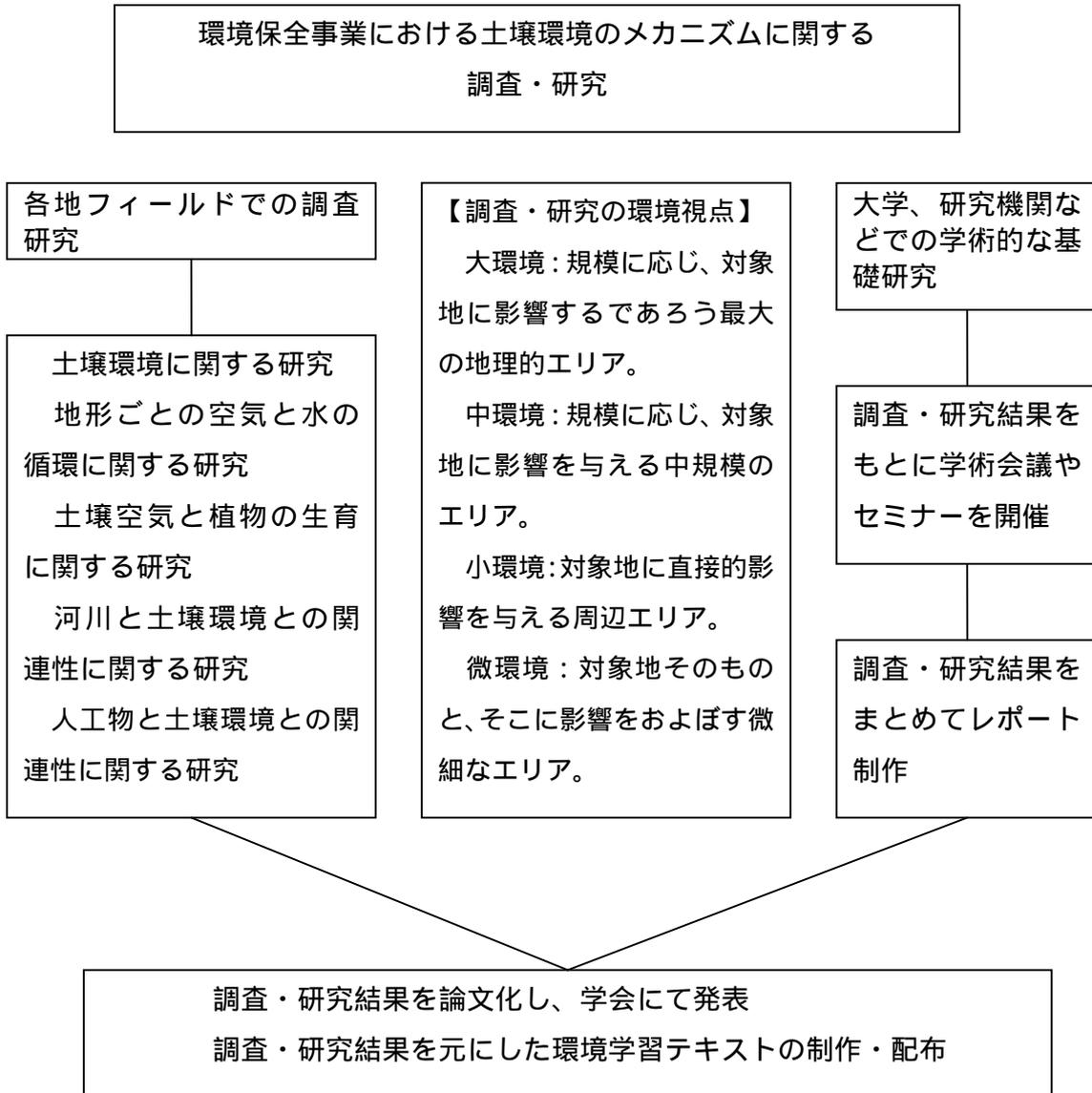
調査・研究結果をもとに学術会議やセミナーを開催

調査・研究結果をまとめてレポート制作

調査・研究結果を論文化し、学会にて発表

調査・研究結果を元にした環境学習テキストの制作・配布

政策の実施方法と全体の仕組み（必要に応じてフローチャートを用いてください）



政策の実施主体（提携・協力主体があればお書きください）

実施主体

特定非営利活動法人杜の会

提携主体

首都大学東京、沖縄県農林水産部森林緑地課、国頭村立佐手小学校、愛農学園農業高等学校

協力団体

滝乃川学園、東極楽寺（神戸）、岩屋神社（京都）、社会福祉法人明清会（山梨）

政策の実施により期待される効果（具体的にお書きください）

全国の開発地周辺で進行している雨水浸透低下による、陸地・河川・沿岸海域の泥水汚染と生態系の保全、農林水産部門や緑化環境保全等の各産業及び技術の振興、環境保全型観光の振興、環境教育事業の推進。

## その他・特記事項

戦後日本の国土は、いまだかつて経験したことのない国土開発とその整備を充実させてきたと言っても過言ではない。そのお陰で、一般国民の生活水準や利便さは、かつてない充実をとげるようになってきた。しかし、その一方で全国各地の生物環境は、衰退方向をたどり、災害の頻発もいなめない状況になってきた。当会ではこの問題を、日本の各地の具体的な現場で見据えなおし、その共通点を模索してきた。そして現在、辿りついたのが、泥水流出汚染の問題である。これは、各開発地では、天然の土壌内の空気と水の対動的な動き（例えばストロー内の水が動くには、その中の空気が先に出ることによって、その水が動くことになる。）が崩され、円滑に機能しなくなることによって生じる現象であると思量された。すなわち、土の中への重量物・・・空気と水の移動方向が閉ざされたりすると、雨のたびに雨水が地中へ浸透できず、表土を洗って泥水を出し続けることになるのである。この結果、周辺にこの泥水が流出し、河川流域から沿岸海域を含めた泥水汚染が進行することになる。このかつてなかった通気不良に伴う泥水汚染は、植物の根の呼吸不良をはじめバクテリア環境の異変等を引き起こし、様々な生物の生態を脅かす要因になっているものと考えられる。なぜなら今、当会の各地における現場において、生物環境の改善施工に取り組むたびに、空気と水の循環を再生し、雨水浸透を回復してやると、植物をはじめ小動物の改善反応が急速に進行するのである。この意味で、大地における空気と水の対動的な循環という生物環境の共通問題の研究は、これまでどの専門分野でも注目されたことがなかったが、これからの生物多様性環境再生にとって必要かつ緊急な課題であることは疑いがない。